

北海道医歌人会詠草



浄土行

呆けたる妻にやさしい職員に老いの一徹、焼餅を焼く

「長生きをし過ぎたんだよ」と溜息の老爺が差し出すナンパの指先

「私にもやさしい旦那が欲しいよ」と若婿探しの老女ありけり

呆けるなら円満無欠に呆けたいねまだらは人に憎まれるもと

女部屋訪ね歩きし呆僧はいま寝たきりの仏となれり

釧路 兎玉 昌彦

九十肩

着ると脱ぐ右肩走る痛みあり九十肩とて苦笑いする

寝入りばな右肩を衝く痛みあり睡眠導入剤に頼りたくなる

年齢のせいとは言はず専門医説明の言葉を選び給へる

妻軽き脳出血を起こしたりキーを子供に取りあげられて

予備検査認知症テストクリアして車の鍵は返して貰へず

札幌 古屋 統

閑院

うすれゆく人間の世界をさびしみてたよらんとする短歌の世界

過ぎしこと頭に長く曳きずりて出雲大社の雪なき参道

淡々と感傷などは遠のきて閑院を決めし新たな年

スポンジが水吸う如く乾きたる心にしみる一冊の本

付録なる短歌手帖に書き止めん兄征く時の晶子の叫び

旭川 稲積 文子

原子番号113番

かつてなき日本の原子番号新理科年表楽しみ待つ

30番を83番にぶつけたる核融合より113番生まれる

新元素発見から早や十年余努力続けし甲斐を喜ぶ

雪多き今年の美唄のゴルフ場例年通りのオープンを待つ

女子プロの三年振りのトーナメントひたに待ちをり九十寿の我は

美唄 吉村 誠治

遅き春

遅き春待ちわびるごとクロッカスの雪間に覗く色とりどりに

華やかに千鳥ヶ淵の桜咲く北の国では春まだ遠し

ヴィヴァルディの四季の調べを聴きながら春待つ吾の心なぐさむ

聴く耳に春はさまさま異音続くおどろおどろし春の祭典

残雪に冬の匂いはあるのかと手には取れどもその冷たさよ

江別 三宅 浩次

エゾサトザクラ

風おこりエゾサトザクラ花が散る旋風つむじに乗りて巡り戯る

雨あがる期待抱きて歩き出づサクラの緑艶めきて来つ

境内のハナカイドウの紅色の蕾の群れを尻ら眺め行く

旋風に狂ひ舞ひ飛ぶレジ袋捉へんとすも浮きて逃げ行く

筋状の雲は動かず覚えなき鳥渡り行く山に向かひて

札幌 浜島 泉